

考えよう！
新型コロナウイルスに
感染したときのこと



活用にあたって

1 学習展開例の内容等について

No.	タイトル	内容	推奨学年
①	『感染の可能性は誰にでも』	・新型コロナウイルスに感染する可能性 ・コロナと共に生活するうえで大切なこと	小学校・小学部 中学校・中学部 高等学校・高等部
②	『あったかメッセージを届けよう』	・感染した友だちの不安への想像、共感 ・感染した友だちを励ますメッセージ	小学校・小学部 (低・中学年)
③	『どんなクラスなら安心？ ～安心宣言をつくろう～』	・感染した時、友だちにしてもらいたいこと ・感染しても差別されない学級づくり	小学校・小学部 (中・高学年) 中学校・中学部
④	『もしこんなことになったら…』	・感染による学校行事等の中止の想定 ・気持ちの整理、感情のコントロール	中学校・中学部 高等学校・高等部

注) ・①『感染の可能性は誰にでも』は、②～④の学習を行うための基礎として作成しました。
・推奨学年を広く設定しているため、発達段階によっては未習の漢字が使われていたり、難しい表現となっていたりすることがあります。必要に応じて変更してご活用ください。

2 活用について

短時間で活用していただけるよう作成しました。学校の状況に応じてご活用ください。推奨学年を示していますが、学校・クラス・地域の実態に合わせて編集し、柔軟に活用してください。

※本指導資料は編集できるように、PDF ファイルとあわせて、Word ファイルを送付しています。

3 学習展開例の表記ルールについて

青字(*1)は、授業者向けのもので、以下の2種類があります。

- ・指導上の留意点
- ・予想される子どもの反応(*2)…斜体字で示してあります。

(*1) 小さめの文字で表記しています。

(*2) 「子どもの反応」の記述は、学習のねらいに沿ったものを中心に記載しています。

4 家庭と連携した取組の推進について

新型コロナウイルスに係る偏見や差別を防ぐためには、感染しても誰からも責められない学校づくり・地域づくりを進める必要があります。そのために、学校が子どもたちに行う学習活動を保護者等に発信し、取組への理解と協力を求めていくことが重要です。

【関連資料】

- ・『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル
～「学校の新しい生活様式」～ (2020. 9. 3 Ver. 4)』(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/content/20200903-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

學習展開例

展開例①『感染の可能性は誰にでも』（推奨学年:小学校・小学部 ～ 高等学校・高等部）

【ねらい】・新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があることを理解し、その状況下で自分が大切にすべきことを考える。

・子どもの発達段階に応じて、設問2から行ってもよい。

1 文部科学省がまとめた資料によると、6月1日から8月31日までの間で、新型コロナウイルスに感染した児童生徒は1,166人。その感染経路は、主に次の3つでした。それぞれどれくらいの割合か、想像して書き入れましょう。

家庭（ 56 ）% 学校（ 15 ）% 家庭・学校以外の活動等（ 8 ）%

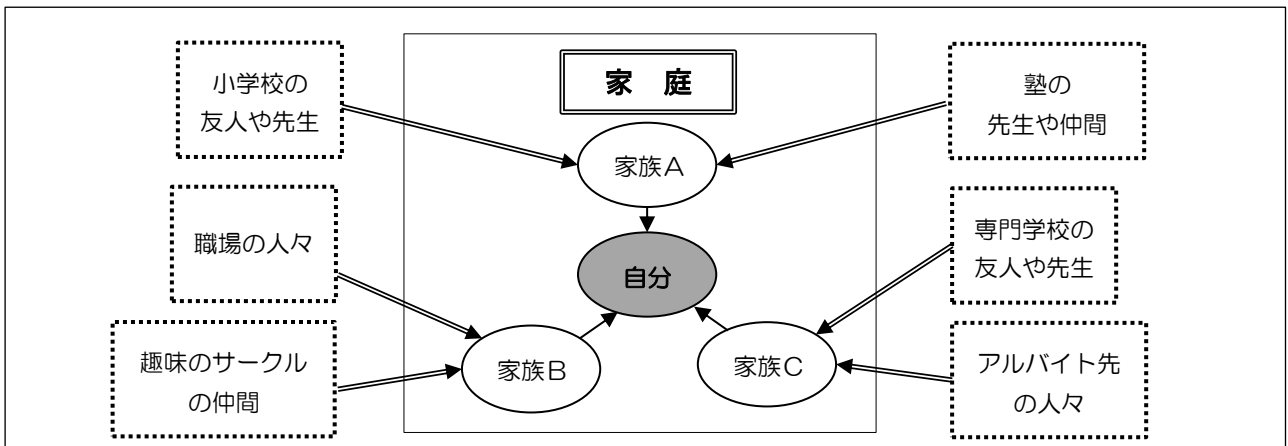
・資料は9月3日に文部科学省が公表した『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.9.3 Ver.4）』によるもの。

感染した児童生徒数	うち有症状者数 うち重症者は0人	感染経路判明				感染経路不明
		家庭内感染	学校内感染	家庭・学校以外の活動・交流等	海外からの帰国	
1,166人	556人(48%) うち重症者は0人	655人(56%)	180人(15%)	98人(8%)	7人(1%)	224人(19%)

- ・家庭内感染の割合が最も高いことを確認し、設問2へつなぐ。自分の家庭での感染防止対策を想起させておくともよい。
- ・感染への不安感が強い子どもに対しては、感染した児童生徒1,166人のうち、重症者は0人であったことを伝えたり、学校内感染は家庭内に比べて低いことを指摘したりしてもよい。

2 次の図を見て、自分が家庭で感染する可能性について考えましょう。

- ・以下の図を提示し、家庭内感染に着目して考えさせる。子どもに自分のケースを書かせてもよいが、その際は児童養護施設で暮らす子どもや、家族の就労状況等に配慮する。



- ・主な感染経路である家族はそれぞれに多くの人とつながっていることに気づかせる。そこから、誰も感染する可能性があることを実感させたい。「感染防止対策をしても無駄だ」といった悲観的な考えが出された場合は、設問3で改めて取り上げ、対策の大切さに気づかせたい。

3 誰もが感染する可能性がある中で生活していくためにはどんなことが大切か、考えましょう。

- ・子どもの意見を取り上げながら、誰もが感染する可能性があるからこそ、家庭を含むすべての場での感染防止対策が大切であることを確認する。
- ・「誰もが感染する可能性がある」という事実から、「自分も感染するかもしれない」「感染した人を責めても意味がない」といったことに気づかせたい。5月に発行した人権学習指導資料の学習展開例⑤等を活用し、感染者を責めたり差別したりすることが、感染拡大につながってしまうことについての学習につなげるとよい。
- ・設問1に示したデータから有症状は48%、すなわち約半数の人は無症状であることに着目させてもよい。そこからマスク等の感染させないための対策の大切さを認識させたり、自分も気づかないうちに感染者になっている可能性に気づかせ、感染者への攻撃が自分に向けられる状況をイメージさせたりすることもできる。
- ・文部科学大臣のメッセージ「児童生徒等や学生の皆さんへ」（令和2年8月）等を提示してもよい。

展開例②『あったかメッセージを届けよう』〔推奨学年:小学校・小学部（低中学年）〕

【ねらい】・感染した人の不安な思いを想像し、感染した人が安心できるメッセージを考える。

1 次の話を読んで、Aさんはなぜ、みんなに会うことが不安だったのかを考えましょう。

おな 同じクラスのAさんが^{しんがた}新型コロナウイルスに^{なう}感染し、しばらく^{がっこう}学校を^{やす}休むことになりました。

その後、Aさんは2週間ほど^{しゅうかん}入院し、^{にゅういん}治療を終えて^{ちりょう}退院しました。そして、翌日^おから^{たいいん}学校に行けることになりました。

ところが、^{とうじつ}当日の朝、Aさんは^あみんなに^{ふあん}会うことが^{がっこう}不安になって、^い学校に行くことができませんでした。

みんなから避けられたり、悪口を言われたりするのではないかと心配だったから / みんなにうつると思われるのではないかと心配だったから / 友だちが家族や近所の人から、自分や家族に近づかないように言われているかもしれないと思ったから

・この段階での発問では、Aさんが、上記の意見だけでなく、「もし完全に治っていなかったら感染を広げてしまうかもしれない」ことが不安だったとの意見も考えられる。様々な「不安」のわけを出し合うことで、想像力を広げるようにしたい。

2 続きを読んで、考えましょう。

げんめ 3限目のはじめに、せんせい 先生が、

「みんながどんなふう^{せつ}に接してくれるのか^{ふあん}不安に^{おも}思って、^{がっこう}学校に^こ来られなかったみたいなんだ」

と、Aさんの^{きもち}気持ちを^{くらす}クラスで^{つた}伝えました。

そこで、みんな^{めつ}でAさんへの^{せー}メッセージを^じ書いて、^か届けることに^{とど}しました。

つぎ ひ 次の日、Aさんは^{あんしん}安心して^{がっこう}学校に^い行くことができました。

(1) あなたがもしAさんと同じクラスにいたら、Aさんにどんなメッセージを書きますか。考えてみましょう。

大丈夫だった？ / 元気になってよかった / みんな心配してたよ /

さみしかったよ / また一緒に遊ぼう /

困ったことがあったら相談して / 勉強でわからないことがあったら、教えるよ / いやなことを言う人がいたら、私たちが注意するよ / 誰でもなる可能性がある病気にたまたまAがなっただけだよ

(2) 書いたことを発表しましょう。

・メッセージに込めたような思いがクラス全体に広がれば、誰かが感染したとしても、病気以外のこと（避けられたり、悪口を言われたりすることへの心配）で不安に思わなくてもよくなるということに気づかせたい。

展開例③ 『どんなクラスなら安心？～安心宣言をつくろう～』

〔推奨学年：小学校・小学部（中・高学年）、中学校・中学部〕

【ねらい】・感染者が安心して過ごすことができる関わり方や態度について考え、感染者を責めるのではなく、受けとめようとする意識を持つ。
・作成した宣言を意識し、いじめや差別をなくすための実践行動ができる力を高める。

1 自分が新型コロナウイルスに感染したとします。治療を終えて登校してきたときに、クラスみんなにどのように関わってもらったら安心できますか。自分がしてもらいたいことを考えて、書きましょう。

「心配したよ」など優しい声をかけてもらいたい / 「お帰り」と言って、何気なく気遣ってほしい / 責めないでほしい / からかったり避けたりしないでほしい / 興味本位で入院中のことを質問しないでほしい / いつもと同じように接してほしい /

2 それぞれが書いたことをもとに、クラスの誰かが感染しても、いじめや差別の心配をせず安心して過ごせるよう、クラスの「安心宣言」をつくりましょう。

- ・設問1の活動で一人ひとりが書いた「自分がしてもらいたいこと」を出し合い、自分が友だちにしてもらいたい安心できる関わり方が、「自分がみんなに対してできる行動」でもあることに気づかせたい。
- ・たくさん考えを出し合うことにより、できることを柔軟に考えられるようにしたい。また、自分にはなかった考えに着目させ、してもらいたいことは人それぞれ異なることに気づかせたい。他者の考えから発想を広げ、感染者が安心して過ごすことができる関わり方や態度について考えを深め、感染者を責めるのではなく、受けとめようとする意識を持たせるようにしたい。
- ・自分たちにできることが多いほど、複数の視点・取組によって安心して過ごせる環境をつくっていくことができるということを確認する。宣言文の数は制限しない方がよい。

- ・宣言を作成する際、大切にしたいポイントとして、以下のような点が考えられる。

- ①心配してもらえないこと、優しい声をかけてもらえないこと
- ②責められないこと
- ③からかわれないこと
- ④避けられないこと
- ⑤本人の望む対応をすること など

- ・学習のまとめとして、一人ひとりがこの宣言を意識した言動をしていくことの大切さを確認するとともに、クラスの児童生徒が感染者や濃厚接触者となった場合、本人が設問1の活動で記入していた内容等をもとに関わっていくことを確かめ合っておくとよい。

【発展的な学習として】

各学級で作成した宣言を、実行委員や児童会・生徒会が中心となって交流する機会をもち、学校の宣言としてとりまとめることで、学校全体で新型コロナウイルス感染症に係るいじめや差別を許さない環境をつくっていくことができる。

展開例④『もしこんなことになったら…』〔推奨学年：中学校・中学部、高等学校・高等部〕

【ねらい】・感染が原因で部活動や学校行事等が中止になったときの自分の思いを想像し、どのように気持ちを整理すべきかを考える。

1 次の文を読んで考えましょう。「私」はどんな気持ちだったと思いますか。

もうすぐ、ずっと目標にしてきた演奏会がある。1年間、この日のために練習をしてきた。

演奏会まであと2日に迫った日のホームルームで、先生が、この学校で新型コロナウイルス感染者が判明したことを告げた。

先生は「これから3日間、学校は臨時休業となります」と続けた。

「臨時休業って、部活動はどうなるんですか」と私は思わず質問していた。

「学校が臨時休業のときは、部活動もできないんだ」と先生が言った。

私は、頭の中が真っ白になった。

なんでこんなときに… / 感染者のせいでこれまでの努力が無駄になる

2 続きを読んで、自分が「私」のような状況になったらどんなふうに考えるか、想像して書きましょう。

いろんな思いが入り混じって、頭の中でぐるぐる回っていた。

しばらくして先生が言った。

「感染したくてする人はいないよね。感染した子のこと、心配だね」

「感染した人を責めるのはおかしい」ということは、頭ではわかっている。心配する思いもある。でも、この演奏会に向けて頑張ってきた日々を思うと…。どんなふうに気持ちを整理すればいいのだろう…。

・自分にとっての大切なこと（部活動の大会、修学旅行、文化祭等）に置き換えて、「自分ならどんなふうに考えるか」を考えさせる。「責めるのはおかしい」という理性と、「でも悔しい、悲しい」という感情の葛藤に向き合わせる機会にしたい。

・子どもの意見を聞いたり、授業者の考えや経験を伝えたりしながら、「感染者が悪いわけではない」「自分も感染する可能性がある」「代わりにできることを考えたい」といった発言を引き出した。

・子どもたちは卒業後も含め、ここに挙げたような事態に直面する可能性がある。そのようなときに自暴自棄になったり、誰かを攻撃したりすることなく、自分の感情をコントロールすることが大切だということに気づかせたい。

・この学習では、はっきりした「答え」を求めるのではなく、このような葛藤に向き合うときに大切にしたいことについて確認することが重要である。授業者は以下のような内容を伝えるとよい。

「こんなことがあったら、悔しかったり悲しかったりするの当たり前です。しかし、その思いを自分や他者を傷つけることにつなげないことが大切です。そうしないために理解しておきたいのは、①「誰でも感染する可能性がある」②「感染した人が悪いわけではない」③「感染した人の命や健康が大切である」といったことです。今後、実際にこんなことが起こるかもしれません。新型コロナウイルス以外のことが原因となるかもしれません。どんなふうに気持ちを整理するか、私たち一人ひとりが考えておく必要があると思います。」

・提示文の最後を以下のように変更し、（ ）に入れる言葉を考えさせてもよい。考えの方向付けをすることで、授業のねらいを達成しやすくなる。（ ）に入る言葉の例は上の①～③を参考にするとよい。

「感染したくてする人はいないよね。感染した子のこと、心配だね」

私ははっとした。

演奏会が中止になることを残念に思う気持ちは変わらない。でも先生の言葉を聞いて、（ ）という気持ちを持ちたいと思った。

2020（令和2）年9月発行
三重県教育委員会事務局 人権教育課
〒541-8570 津市広明町13番地
電話 059-224-2744（市町支援班）
059-224-2745（県立学校班）
FAX 059-224-3023